



# 月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

97.5.2 No. 4590.

# ますます/ファシスト労働運動 明らかにJR総連・革マルの正体

## 春闘解体の先兵 JR総連

国鉄分割・民営化が、ある意味でたいした抵抗も受けずにこだけだけ大変な攻撃が強行されたのは、革マルが指導権を握った労働の裏切りが決定的な要因とされている。革マルの先兵化がなかったら、こうもストリートに分割・民営化は強行できなかったはずだ。

当時の首相・中曽根は雑誌のインタビューでこう述べている「総評を崩壊させようと思ったからね。国労が崩壊すれば総評も崩壊するということを明確に意識してやったわけです」(「アエラ」九六年一月三〇日付)。「赤字の国鉄を再建する云々」は攻撃を正当化するための口実で、本当の目的は闘う労働運動、労働組合を徹底的に潰すことにあった。

この分割・民営化の先兵であった労働・革マル。革マルとの闘いは、もはや国鉄闘争だけの課題ではなく、日本労働運動の再生、前進をかちとる上での全体的な課題だ。そのことを誰の目にもわかる形で示したのがこの間の、「三・一九春闘ストへの敵対」だ。

今、大失業時代が到来すると言われている。日経連のセミナーでも各企業のトップの話は全部首切りの問題だ。資本の側から日本の戦後の雇用形態、賃金の形態、労資関係を全部解体すると言っている。

こうした中で闘われた国労、労働千葉・総連合の三・一九春闘ストライキは、日経連が今年一月に出した「労問研報告」での五年連続ベア・ゼロ宣言、私鉄での集団交渉拒否に象徴される春闘解体のスト一掃攻撃に対して、国鉄闘争を先頭に「大失業と戦争の時代を、ストライキで闘おう」と日本の全労働者に闘いへの決起を呼び掛けるものとして大爆発した。

いうまでもなく、この闘いに全面敵対したのがJR総連・革マルだ。「何のためのスト」「国労ストで何が解決するのか」「断固として拒否しよう」と。そこにあるものは労働者が闘いに決起することへの恐怖、「資本や権力とは絶対に闘ってはならない」「労働者は闘っても勝てない」論だ。

3.19スト破壊を呼びかける。東武労組のビラ

国労ストで何が解決するのか  
見届けよう

3月19日国労は「35000人の賃上げと諸要求の実現」「国労差別を排除した正常な労使関係の確立」等で一日ストライキに入るといふ。  
昨年と同じ内容で3月22日ストに入り頑張ったが、何一つ解決することができず挫折感だけが深い土気も上がらなかったのが現実だ。

何のためのスト?  
計画しています。しかしこのストは、賃金引き上げを掲げてこの重要なスト」と述べているように、賃上げが目的ではなく、西日本や東海の経営陣にそそのかされて、JR連合の創設を決定している意味はそういうことです。  
筋手を被ることは全くありません。私たち東労組は「横並び」の労働組合の創設を望みます。

## 資本の意思を体现

今日、JR総連・革マルのファシスト労働運動の正体はますます明らかになっていく。絶対に打倒しなければならぬ当局・資本の先兵であり、労働者に

とって不倶戴天の敵である。三・一九ストライキはこうしたJR総連解体にむけた「組織拡大春闘」として闘われた。国労の仲間達は、東日本全体で三・一四〇名がストに突入し、とくに、JR本社前は四千五百名の積もりに積もった怒りにつつまれた。集会ではJR総連解体に向けた闘いへの決起が訴えられた。

三・一九ストを転換点として、JR体制打倒に向けた気運が満ち始め、労働千葉が二〇年間にわたって貫いてきたJR総連・革マルとの闘いが、今すべての国鉄労働者の課題として認識されはじめていく。

この道を、自信と確信をもつてつき進もう。JR総連・革マルのファシスト労働運動の正体を暴ききり、怒りを結集して、国鉄分割・民営化一〇年間の攻防戦に決着をつけるべく、JR総連解体・組織拡大に総決起しよう。